令和４年度　北方町 PTA 連合会研究報告会

コロナ禍における家族や大人との関わりが子ども達に与える影響について

北方南小学校 PTA

1. はじめに

コロナ禍も３年となりますが、北方南小学校 PTA は、活動が制限される中でも出来る活動を、と工夫しながら活動してきました。

令和４年度の北方南小学校 PTA スローガンは、『Always with a smile』～子どもたちがいつも笑顔な学校に～です。子ども達の笑顔は宝物です。どんな時も笑顔で、そして笑顔溢れる新しい学園に向けて進んでいきたいという想いを込めました。

そこで、今年度の活動は、例年の活動に加え、新たにコロナ禍で生まれた活動に取り組むことで、『Always with a smile』を実現していきたいと考えています。

2. 研究の取り組み

新型コロナウイルスの拡大により、家族で過ごす時間が増え、その中でのふれあいの重要性を改めて確認しました。また、コロナ禍以前の活動も変化を余儀なくされる中、子ども達が家族以外の大人とのつながりを絶やさずどのように関わることが出来るか、そして、家族と家族以外の大人との関わりが子ども達にどのような影響を与えるのかをテーマに今年度の活動に取り組むこととしました。

研究の具体的な取り組みは、「あいさつ運動」「親子の絆を深めよう！プラスワン」「親子奉仕活動」の３つです。

3. 取り組みの内容と結果

(1) あいさつ運動

活動の内容：子どもサミットの日以外に、毎月１５日に校門で執行部によるあいさつ運動を行いました。

例年、子どもサミットの日には、子どもによる登校途中でのゴミ拾い、校門でのハイタッチを行っていましたが、令和２年度より中止となっています。これまでは、4 月に校外生活指導委員が行う立哨期間に合わせて、執行部でのあいさつ運動を行っていましたが、今年度は、子どもサミットの日以外にも１年を通して執行部として子ども達とどの様に関わっていくかを話し合い、毎月１回のあいさつ運動を行うこととしました。

活動の狙い：年度初めだけでなく、１年を通してあいさつ運動を行うことで、子ども達の様子が確認でき、執行部の顔を覚えてもらうことで、元気にあいさつしてもらい、１日を気持ちよくスタートしてもらう。

活動の結果：継続して行うことで、「おはようございます！」と声をかけると、大きな声で「おはようございます！」と返してくれる子ども達が増えてきました。特に、恥ずかしがっていた１年生も、次第に大きな声であいさつをしてくれる子が増えたり、初めは反応のなかった子でも、会釈をしてくれるなど、子供たちなりのあいさつを返してくれています。

また、あいさつ代表委員（４～６年生）へのインタビューでは、

◆４月に始めた時より、みんなが（児童が）しっかりとあいさつをしてくれるようになった。 ◆あいさつを返してくれると、自分もして良かったと元気になれる。 ◆PTA さんが話しかけてくれて、うれしい。 ◆子どもサミットの日は大人と話が出来るので良い。

などの意見を聞くことが出来ました。なお、子どもサミットの日に参加して頂いている地域の方からは、**「最近は、子ども達との関わりが少なくなっているので、子どもサミットの日で子ども達とあいさつを交わして関われる事が嬉しい。」**というご意見を頂きました。あいさつ運動は、子どもにも大人にも良い機会であり、元気を与えたり与えられたりでき、良い１日をスタートさせるきっかけになる活動であると考えています。

(2) 親子の絆を深めよう！プラスワン

活動の内容：「親子であったかーい言葉をかけ合う」「親子で絵本の読み聞かせをする」「親子で『大好きっ！』とハグをする」「親子で趣味を楽しむ」など８項目から選び、親子で取り組んでもらう。期間は１週間。実施用紙を全子配布し、児童と保護者の方に感想を記入してもらえるよう記入欄を設けました。

活動の狙い：コロナ禍により、家で過ごす時間が増えたことから、家族との関わりを大切にし、絆を深めてもらう。

活動の結果：児童と保護者の方から以下のような感想を聞くことが出来ました。

≪児童の感想≫	≪保護者の感想≫
◆テレビを消すと話がとても盛り上がって、ハグをすると親子がとても大好きになりました。 ◆毎日、いろいろなあったかーい言葉を言うと、うれしい気持ちになりました。 ◆あいさつをしたら心が落ち着いた。あいさつをいっぱいしたいです。	◆毎日笑顔であいさつしてくれて、ありがとう。お互いの気持ちが分かってあったかくなりました。 ◆いつもより多くコミュニケーションが取れたような気がしました。 ◆ハグをした時、目線の位置が娘とさほど変わらないことに驚き、気付かぬ間にどんどん成長している姿に喜びを感じると共に、少し寂しさを感じました。

また、**児童、保護者の方の両者共に「またやりたい！」という意見が多くありました。**この活動を通じて、普段の親子のふれあいに加えて、成長と共にやらなくなったことや普段は恥ずかしくて出来ないことなどにも取り組んでもらうことで、家族の会話やスキンシップなどのコミュニケーションのきっかけとなり、子どもにとって家族が安心できるものであ

ること、保護者の方にとって子どもの成長を感じることの喜びなどが再確認できたと考えています。

(3) 親子奉仕活動

活動の内容：グラウンドの除草作業と学校周辺の側溝掃除、運動会に向けた土嚢作りを行いました。

除草作業は、例年は草を抜くだけの作業でしたが、今年度は方法を変え、参加者を世帯単位で 2 グループに分け、抜いた草を入れた袋の数を競うチャレンジゲームとして行いました。チャレンジ時間は 30 分。作業範囲を大まかに指定し、範囲内で作業して頂きました。

活動の狙い：美化活動を行うことで、子ども達に「学校を大切に思う気持ち」や「施設や環境に感謝する心」を育む。

また、親子でチャレンジゲームに取り組んでもらい、協力して取り組むことの楽しさを感じてもらう。

活動の結果：39 世帯、116 名の方々にご参加頂き、活動後にアンケートを実施しました。

質問 1 おうちの人と協力して、草抜きが出来ましたか？	できた 40 名 できなかった 0 名
質問 2 親子奉仕活動(親子で協力！草抜きチャレンジ)は、楽しかったですか？	楽しかった 40 名 楽しくなかった 0 名
質問 4 親子奉仕活動(親子で協力！草抜きチャレンジ)は、またやりたいですか？	またやりたい 36 名 やりたくない 4 名
質問 3 おうちの人と協力して草抜きしたことや、草抜きをした運動場を見て、どんな気持ちになりましたか？	

≪児童の感想≫	≪保護者の感想≫
◆草がいっぱい生えていた所がすっきりしたので、心もすっきりしました。 ◆お家の人との絆が深まったような気持ちになった。 ◆使う人が気持ちよく使ってくれたらなと思うと嬉しくなります。	◆初めて参加しました。親子で協力して何かをやるという事が最近なかったので、とても良い機会になりました。来年も参加したいです。 ◆お友達と協力して競い合う姿が可愛かったです。 ◆中学生の娘も参加しましたが、恩師たちとたくさんおしゃべりしながら作業でき、とても楽しかったと言っていました。 ◆対戦方式にしたことで、子供たちの意欲を掻き立ててとても楽しく出来たので、良いアイデアだと思いました。

「チャレンジゲームをまたやりたい」との意見も多く、家族や友達と協力して取り組むことで、単純な作業も工夫して行うことで楽しくなることを感じてもらうことが出来たと考えています。

(4) 親子ふれあい活動

活動の内容：1月に親子でミニゲームを楽しむ活動を予定しています。内容は、現在検討中です。

活動の狙い：家族やチームの仲間と協力することの楽しさや、学年や年齢関係なく大人数で遊ぶことの楽しさなどを感じてもらう。

4. まとめ

これらの活動を通して、家族とのふれあいに加え、自分の家族以外の大人や先生と関わる事が、**子ども達の笑顔や安心感をもたらす**ことが分かりました。これまで、子ども達の笑顔のために活動に取り組んできましたが、普段の生活では行わないような機会を提供することで、子どもの成長を感じたり、家族の会話を楽しんだりスキンシップをしたり…と、大人にとっても笑顔の生まれる良いきっかけであったと考えています。

来年度開校する南学園でも、子ども達、そして子ども達と関わる大人がいつも笑顔になれる活動に取り組んでいきたいと思います。